

(23) 平成14年(2002年)10月27日(日曜日)

Sunday世界日報

「南北統一とアジアの平和をめざす集い」を開催

日・韓・朝の議員等が交流
大阪



平和、復興、繁栄について、日・韓・朝・米・中・露の各国が同じテーブルで真剣に話し合うべき」とした。

「南北統一とアジアの平和をめざす集い」(主催・南北統一とアジアの平和をめざす集い実行委員会、後援・関西アジア人協会等)が十月十九日夕、大阪市内のホテルで開かれた(写真)。日韓両国の地方議員、民団、朝鮮総連関係者、学者等約百五十人が参加、分断されている韓国と北朝鮮の「平和的統一」に向けての活発な意見の交換が行われた。

八木ひろし大阪府会議員の歓迎の挨拶に続いて、世界日報社長・主筆の木下義昭氏が「南北平和統一の急に何をなすべきか」とのテーマでメインスピーチ。同氏は「北朝鮮の核開発問題があるが、米国は外交的解決を目指しておらず、イラクへの対応とは別にしている。拉致問題を早期に解決し、北東アジアの

具体的には「日韓トンネルで九州(唐津)と釜山を結び、ソウル、平壤そして上海へ、またシベリア鉄道と連結しユーラシア大陸を横断、ロンドンまで通ずる世界ハイウェイ」を建設する「世界平和に繋がる」と述べた。

また、韓国・忠清南道大田広域市会議員団六人を代表して团长の沈俊洪氏は、「日韓ワールドカップで両国の友好関係はさらに深まった。北朝鮮との関係も今後良くなるでしょう」と述べ、「南北統一」が現実味を帯びているとの見方を示した。同会の宋委員や野村委員は、今後互訪問や、「南北を結ぶ鉄道のペーン活動」をしていきたいと